

網干区浜田龍門寺の墓地にひっそりと、しかし堂々とそびえ立つこの石碑は、5代目網干町長山内武平の碑である。『網干町史』の人物紹介によると、山内武平は、天保13年8月8日に太田村原（現揖保郡太子町）で生まれている。明治15年まで小学校教員を務めたのち、明治22年網干町会議員、明治26年助役、明治31年に町長に就任し4年在職している。明治42年には兵庫県知事表彰を受け、大正7年8月5日77歳の生涯を閉じた。また『人事興信録第4版（大正4年1月情報）』には、職業として、株式会社網干銀行頭取、西播石炭株式会社、兵庫県水産株式会社各取締役とあり、網干町の発展に大きく寄与した人物であることがうかがえる。碑文は、以下の通りである。（一部新字使用）

翁以天保十三年八月八日生於太田原歲十六喪父嗣家資性謹直而周密有可親而不可犯者嘗獨語曰男兒須立身行道揚名於後世明治初榮庠序後為教員明治十五年辭職專盡力於水產業指導其名漸高於郡内既而被推為網干町長兼銀行頭取規畫皆適於宣其名遂及於縣内如其網干漁業組合長揖保郡水産組合實翁畢生之業而其餘沢及播之沿海明治四十二年服部兵庫縣知事親表彰之由之其名聞近府縣大正四年嗣子關西中學校長佐太郎君舉翁之金婚式也上自相將硯學下及在野知名之士賀其壽福者甚衆於是乎翁之志達而其名竟顯於全國茲年八月五日以病歿享年七十有七噫後世鑑翁事績感奮興起者豈夫尠少也乎

銘曰 播陽之海 維魚維蝦 於物而躍
用之利家 用之利世 德足名加

大正七年十一月 北播福本之士 森岡公木題撰竝書



中川の土手より望む石碑



石碑と山内家総墓

この石碑は、山内武平が大正7年8月に逝去して間もなくの同年11月に養嗣子の山内佐太郎が建立している。山内佐太郎は、全国各地の学校で教育者として名を馳せており、大正5年にはアメリカの教育視察、その後網干町立実業補習学校長を務めたのち、明石市に要請され明石中学校校長（現在の兵庫県立明石高等学校）となり、今でもその教育理念が受け継がれている。また明石を「子午線の町」にしたことでも有名な人物である。そんな山内佐太郎の、養父山内武平の功績を後世に伝えようとした熱い思いが、この大きな石碑に込められているのだ。この石碑と背中合わせに、山内家の総墓が建立されており、現在も子孫の方が大切に守っておられる。



山内佐太郎の著書